

二田キャンパス「文学の丘」

義塾ゆかりの文人を顕彰するモニュメントが建っているのがその由来だ。 近代日本文学界に大きな足跡を残した4人の文人たちを紹介する。 「文学の丘」にある歌碑・句碑・詩碑・胸像それぞれの来歴と

三田キャンパス図書館旧館八角塔脇にある小高い丘は通称 「文学の丘」

学生時代の歌を刻む 吉野秀雄歌碑_

一人の胸像が建っている。 文学の丘」には3つの文学碑と

文学碑の中

で

1 日、 年三田会の寄贈 建てられ、 苗木50本が により沈丁花の 10月には大正 人たちによって 回忌に同期の友 1972年7月 人・吉野秀雄の 最も古いのが歌 歌碑」である。 吉野の七 植樹 同年 14

> る。 は、 試験も苦しかりにき」が刻まれてい 図書館の前に沈丁咲くころは恋も 吉野が学生時代に詠んだという

る。 が、 規などアララギ派の影響を強く受け た。 伝 としても高く評価されている。 を作風とした数々の歌を遺し、 財科予科に進学。 群馬県高崎出身の吉野は 生涯病気に苦しみながらも写生 病床で国文学を独学し、正岡子 病気のため中退を余儀なくされ に感銘を受け、 経済学部に進んだ 慶應義塾大学理 『福翁自

7.保田万太郎句碑] 生時代の恩師を詠んだ

幕式が行われた。 年にあたる1973年5月9日に除 久保田万太郎の 白大理石に黒御影 「句碑」は没後10

された。

碑

面

という。 当。 が」は久保田自身の筆跡で、 おもふ の舞台装置家・古賀宏一が意匠を扣 の碑面がはめ込まれた句碑は、 碑面に刻まれた「小山内先生を しぐる、や大講堂の赤れ 学生時 塾員





の一句である。

文の は て現在も現代芸術や詩学の識者を内 を設け、 品の著作権を慶應義塾に寄託。 く活躍した人物で、 万太郎記念講座 義塾ではその遺志を継いで記念基金 つから 慶應義塾大学文学科出身の)講師を務めている。 小説、 講師として招聘する 文学部ではその資金によっ 戯曲、 演出、 が開講されている。 文学部予科で作 晩年には作 俳句と幅広 「久保田 久保 慶應 田

ħ

ってい

「佐藤春夫詩碑」

影 計 0 \mathbf{H} 後 まれ の て建てられた。 石 口吉郎が は 0) 10 1 断 殉 詩 97 0 あ 々 年 章 碑 情 た佐藤 碑 つ 生 の尽力 を 人 0) 一前 詩 期 1: た建築 ٤ 4 :担当。 から 集 が は 年、 編 E て親 て 三 門 春 3 没 御 家 親 設 ょ 下 夫

> いう しく 塚には愛用 咲きにけ まよひ来れば秋草の 应 手折 行詩が刻まれた。 ŋ していた万年筆が納 ればくるし花散りぬ」 おもかげ見えてなつ ひとつ残 碑の前 つりて めら 0 筆 Ł か

> > ている。

夫は、 生の頃 風に学ぶ。 学者としての名声を確立した。 など旺盛な執筆活動で大正年間に文 **「殉情** 和歌山県新宮の医師の長男で中学 詩集』 慶應義塾大学文学科で永井荷 から詩作を行っていた佐藤春 1913年に中退したが、 や小説 田田 霐 0) 憂鬱

「小山内薫胸像」 二田文壇の人々に慕われた

の別館売店前に設置された。 された「新劇の父」小山内薫。そのされた「新劇の父」小山内薫。そのされた「新劇の父」小山内薫。そのされた「新劇の父」小山内薫。その

28年 田 Щ どで劇文学の講義を担当。 年まで慶應義塾大学文学科な に多大な影響を与えた。 内着 文学』をはじめ、 小 山 任の年に創刊された『三 内は19 47 歳の若さで急逝し 10年から 三田文壇 19

を募り、集まったお金を遺族に贈った妻と3人の子供のために教育基金た際、慶應義塾社中の人々は遺され

内が 胸像が られた。 は谷口吉郎の意匠による台石に載 という理由だった。 なる講演会を開いた旧大講堂に近 間に移設された。 パス西校舎と当時の第3研究室棟 そうした縁もあって、 「築地小劇場」 1964年8月に三 この場所は、 移設の際に胸 旗揚げの発端 歌舞伎座の 一田キャ 小 像 Ш

され 山内の お、 演劇関係の書籍約6 年に胸像は再び移設されることに 大学院校舎建設に伴 「文学の丘 三田 ている。 旧蔵書 「メデ イア 小 の住人となった。 Ш センターには近代 内文庫」 000冊など小 1 1 が収蔵 9 8

